

森の民
10 ベトナム ★
カトウ族の村から

ベトナムの女子高校生の制服は「アオザイ」です。女子高校生の制服のアオザイは「白」と決まっており、この白いアオザイをまとった高校生が集団で学校に通う姿はとてもかれんですてきです。

学校の制服

このアオザイはベトナムの伝統



アオザイを着ている先生と子どもたち

衣装で、世界的に魅力がある伝統衣装の一つと言われている。実はあまり知られてはいませんが、男性のアオザイもあります。でも、男性用アオザイは結婚式以外にめったに見ることはできません。女性用アオザイは、今も結婚式や式典などの大切な行事でよく着用されています。ベトナムの学校の先生も入学式や卒業式、大切な会合の日などによく着ています。

さて、カトウ族の子どもはどうでしょうか？ 子どもたちは白いブラウスに赤いスカーフ、そして男子は青いズボン、女子は青いズボンかスカートが小学校の制服です。これはカトウ族だけではなく、ベトナム全国の小学校で同じ制服です。特に赤いスカーフが小学生の象徴です。最近では、53もある各少数民族の伝統衣装を、制服のように学校の記念日などに着用する取り組み



カトウ族の伝統衣装を着て踊る子どもたち

誇り高き装い

が政府によって推進されはじめています。時折、カトウ族の子どもたちも、伝統織物「カトウ織」の衣装を着用することがあります。学校にお客様が来たり、他校との交流会があると、子どもたちがその伝統衣装をまとい、カトウ族の伝統舞踊を踊ってくれます。女の子は、1枚の布を筒状に体に巻いて腰紐でしばったり、お母

FIDR
FOUNDATION FOR INTERNATIONAL DEVELOPMENT RELIEF
公益財団法人国際開発救援財団 (FIDR)
国際援助を行う民間の非政府組織 (NGO)。1990年に設立され、東京に本部を置いています。ベトナム、カンボジア、ネパールで現地の行政機関や団体と協力して、貧困状態にある人々の生活を向上するために支援しています。日本では、岩手県山田町と大槌町を中心に東日本大震災の被災地の復興支援に取り組んでいます。98年にベトナム中部のダナン市に事務所を設立。

さんがその伝統衣装でワンピースを作ってくれたりもするそうです。男の子は、「ふんどし」と体に斜め十字にたすき掛け。両手に盾と木でできた剣を持ち、太鼓や銅鼓の音楽に合わせて、景気のよい掛け声で勢いよく踊ります。伝統衣装を身にまとった子どもたちの顔はいつもと違って、誇り高く、ちょっとすまし顔で大人びて見えます。(大槻修子)

ベトナム豆知識

16世紀になるとベトナム中部の港町ホイアンに、たくさん日本人商人が来て、日本人町ができました。この港はトゥボン川という大きな川の河口にあり、上流の森にはカトウ族の村々が住んでいます。織田信長も徳川家康もベトナムのお香がとても気に入っていましたが、これらのお香は商人がカトウ族などの山地民族に探してもらい、買い取っていたものです。17世紀以降、ベトナムは南北の内戦が続き、その内戦に清国やフランス、日本、アメリカが介入して、国中が戦場になりました。旧・北ベトナムとアメリカは1972年にパリ和平条約を結び、内戦を段階的にやめることにしました。その直後の73年に、日本は旧・北ベトナム(今のベトナム社会主義共和国)と国交を結びました。今年(2023年)はちょうど40年目です。72年以降も戦争は続き、ベトナムが外国との戦争を終わらせたいのは88年のことでした。その後、さまざまな国のODA(政府開発援助)やNGO(非政府組織)が、ベトナムの戦後復興を手伝うようになりました。道を造り、橋を架け、学校を建て、ダムを造り、留学生を受け入れています。カトウ族の村でも、日本のNGOの人たちが村づくりを手伝っています。(新江利彦)

日本とベトナム②



世界史の現場で

102

ユダヤ人最後の砦

【73年ユダヤ人の集団自決】

イスラエル

国名 イスラエル国
主要都市 テルアビブ、エルサレム
面積 2万2072平方キロメートル
人口 756万2000人(2011年推定)
現地通貨 1シェケル=約25円

「マサダを二度と陥落させない」。イスラエルでは、軍隊に入りたての新人兵士が、古代遺跡「マサダ」でこのように誓います。マサダは、エルサレムから南東約100キロ先の砂漠にある遺跡で、死海を見下ろす台地に築かれた要塞です。ここが、紀元後73年に、ユダヤ民族の記憶に刻まれるような事件が起きた現場です。要塞を完成させたのは、紀元前37年から紀元前4年までユダヤ王国に君臨したヘロデ大王です。台地は高さ400メートルもあり、壁で囲い、守りの堅い要塞でした。砂漠なのに、冬に降るわずかな雨水を集めてためる施設も整っていました。さて、ヘロデ大王が亡くなった後のことです。ユダヤ王国は、ローマ帝国に支配され、属州になりました。エルサレムに住むユダヤ人たちがローマ帝国の支配に抵抗し始め、66年には戦争が起きました。強大なローマ軍は70年にエルサレムに攻め入り、ユダヤ人にとって最も大切な神殿を焼き落としました。抵抗をした中心的なユダヤ人はマサダに逃げ、立てこもり



ユダヤ人900人以上が集団自殺した「マサダ」遺跡。砂漠の中にあります

ました。ローマ軍は包囲しましたが、攻め入ることができません。まず食料の供給を止めました。そして要塞まで届く巨大な斜面を築き、壁を破す機械を運び上げ、壁を倒し始めると、ついに事件が起きました。要塞に残っていたのは、900人以上。リーダーが「奴隷にはならない」と全員に呼びかけ、集団で自殺しました。生き残ったのは7人。ユダヤ人はこの戦争で一度は祖国を失い、1948年のイスラエル建国まで、世界各地をさまようことを強いられたと信じています。【花岡洋二、写真も】